



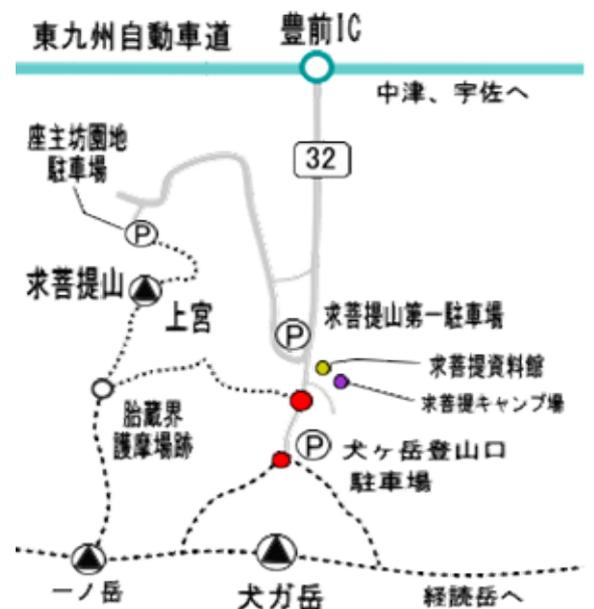
麓の鳥井畑の水車があるところから見た求菩提山。

豊前市の南に位置する求菩提山は修験の山である。山中には数多くの信仰の遺跡も見ることが出来、歴史を感じさせられる。また南には犬ヶ岳もあり2つの山セットで周回し登られることもある。

アクセス

バスが登山口まで通っているが通常はマイカーによる登りとなる。

東九州自動車道・豊前インターを下り、県道32号線を求菩提山の案内に従い山手へ上がっていく。求菩提温泉ト仙の郷の前を過ぎ、更に県道を上がって行くと求菩提山第一駐車場に着く。





上りは五窟巡り、下りは鬼の階段を下る。(登山日 2020. 05. 29)



参考コースタイム 求菩提山第一駐車場～1時間10分～胎蔵界護摩場跡～15分～山頂(上宮)～40分～座主坊園地駐車場～40分～駐車場

参考歩行時間 2時間45分

求菩提山第一駐車場より犬ヶ岳登山口側へ向かって車道を少し進むと右側に登山口にあり、ここから登る。道は杉の植林帯の中、石がゴロゴロした急登を暫く上がっていく。もうこの辺から修験者の道を予感させるようである。



求菩提山第一駐車場



登山口

鋭角T字路の五窟分岐に出会い、ここから求菩提五窟巡りコースになる。右側の道に少し寄り五窟目から順番に見て行こう。古代より信仰、崇拜の山である求菩提山。修験者の場としての岩窟が幾つも見られる。

このルート上には胎蔵界護摩場跡までの間へ順に「阿弥陀窟(第五窟)」「吉祥窟(第四窟)」「多聞窟(第三窟)」「普賢窟(第二窟)」「大日窟(第一窟)」と続く。それぞれの窟には板碑や大日如来坐像などが祭られていたが、現在は保存のため求菩提資料館で展示保管されている。

ジグザグの道を上っていくと稜線に取付き、一の岳や虎の宿跡からの縦走路に出会う。

ここは胎蔵界護摩場跡になる。



五窟の一つ阿弥陀窟（第五窟）



胎蔵界護摩場跡

求菩提山山頂までの縦走路の上り。途中には結界石に出会う。聖域と俗界と分ける境界であったり、邪霊などが入ってくるのを防ぐものであったり、いろんな説があるようだ。

やがて右上に神殿が見えてきて、国玉神社上宮が建つ求菩提山山頂に登頂する。

神殿横に山頂を表すポールなるものが立つ。山頂からは展望は望めない。



登山道沿いに立つ結界石



求菩提山山頂に建つ国玉神社上宮

上宮からの下りは長い石段の下り。鬼の磴（鬼の石段）と呼ばれ、下の中宮まで 850 段の石段が続く。

昔、8匹の鬼がいて悪さをしてたため、権現様が鬼たちに夜明けまでに上宮まで石段を作らせ、出来ない場合は出ていけと命じる。ところが鬼たちの作業は順調にこと運び、夜明け前に完成しそうだったため、権現様は鶏の鳴く真似をし、鬼たちに夜が明けたと勘違いさせ追い出したとの話。

ここは急な下りでもあり、浮石も時にあり、積もった落ち葉などで足を踏み外さないように慎重に下った方が良い。この長い石段を下り国玉神社中宮へと下りる。



850 段の鬼の磴（鬼の石段）の下り



国玉神社中宮（上）と鬼神社（下）

国玉神社中宮、鬼神社から再び石段を下り、常行堂との分岐を経て鳥居が立つ分岐に出会う。ここから右へ400mほど進むと阿弥陀窟（第五窟）へ行けるようだが、ここはそのまま正面の道を下っていく。直ぐ先にて「獅子の口」に出会う。獅子の石像の口から流れ落ちる水は「神の水」「仏の水」とも言われ、昔は山伏の水場であり、ここから上宮まで飲食が禁じられていたという。残念ながら現在は水が出ていないようだ。また直ぐ先には結界石の角塔婆も見られる。



阿弥陀窟（第五窟）への分岐がある。



獅子の口

ここからは暫く幅広いゆっくりした道を進んでいき東照神社・毘沙門堂、安浄寺跡や岩屋坊跡を見て広い参道の石段を下りていくと座主坊園地に出る。ここからは車が通れる道で少し進むと座主坊園地駐車場（トイレあり）がある。

車も通る林道を県道 32 号線まで下っていく。この林道沿いでも様々な信仰の遺跡も見られる。

鬼石坊、構の石門もここで出合える。構の石門もまた結界を現すものと言われている。



座主坊園地駐車場



構の石門

県道 32 号線に出合、ここからはのんびり車道を歩き、求菩提山第一駐車場まで戻る。
 下山後はすぐ近くにある求菩提資料館に行ってみるのも良い。
 求菩提山の信仰の歴史を知ることが出来る。

